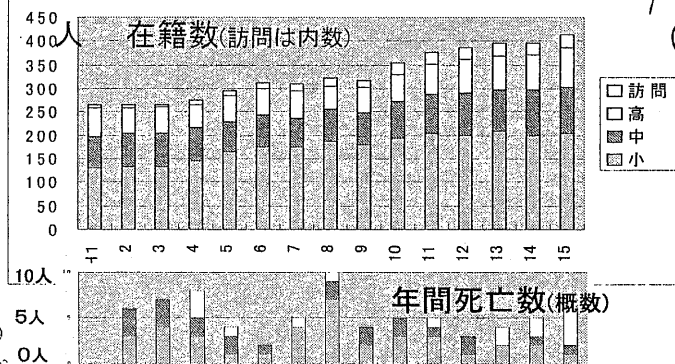


横浜の養護教育への個人的評価

横浜市肢体不自由養護学校在籍者数の動向

■訪問籍は2.3%から7.3%に暫増。死亡例は一定



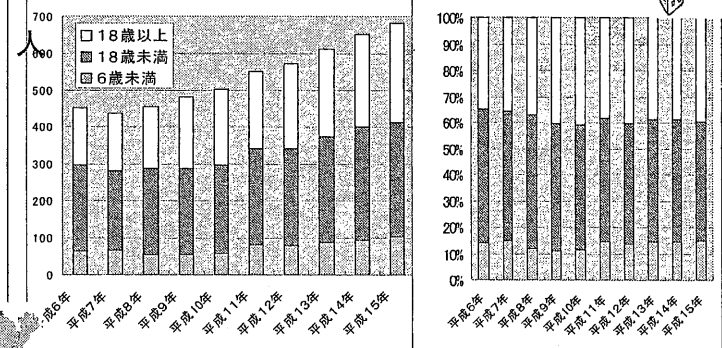
どんな病気・障害があっても地域と一緒に生活したい

横浜「難病児の在宅療育」を考える会
横浜市中央児童相談所 三宅雄太

横浜の養護教育への個人的評価

横浜の重症心身障害児・者の実数と年齢構成

■重心はどの年齢層も安定して増加している。



どんな病気・障害があっても地域と一緒に生活したい

横浜「難病児の在宅療育」を考える会
横浜市中央児童相談所 三宅雄太

臨床指導医と校医・主治医の関係

校医は全員の健康管理・主治医の意見は尊重
学校の実情に合わせるために相互理解の調整役

教諭と看護師は

どのように役割分担しているのか

養護教諭の1名は看護師資格を保有・合計2名に
教師の関係性を重要視し、従来とおり教師主体
養護教諭は全員の健康管理
看護師・教師と協働し保護者・関係機関と連携
看護師は重症児の健康管理に特化し、スーパーバイズも

文部科学省のモデル事業に対する評価

？ 各自治体の努力と裁量権の保証を

どんな病気・障害があっても地域と一緒に生活したい

横浜「難病児の在宅療育」を考える会
横浜市中央児童相談所 三宅雄太

医師の立場から見た 今後の課題

医療的ケア運営協議会

なぜ医療的ケアに特化しなくてはいけないの
子ども全体を議論して・でも体制強化は重要
医療的ケアの質・量の増加にどう対応する
増え続ける事例に医療・福祉との連携が課題
看護師に全部任せるでは子どもにとっても不幸
医療的ケアの子どもは養護学校だけ
悩ましい問題だが選択の自由は保証したい
血圧測定も医療行為だった・先行実施後追い制度

一番の課題は学校だけではなく
学齢前・後の場でどう実施するか

どんな病気・障害があっても地域と一緒に生活したい

横浜「難病児の在宅療育」を考える会
横浜市中央児童相談所 三宅雄太